

シラバス9-1

指定番号 82

商号又は名称：(株) KEG キャリア・アカデミー

科目番号・科目名	(9)ア こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職として法律上の規定からの介護の目的、倫理を学ぶ ・高齢者や障がい者のこころの変化を把握。そして、記憶、意欲といった基礎知識とその人らしく生きていくための生きがいや意欲について学ぶ。 ・高齢者の人体の構造や働きについて学ぶ。あわせて、からだのしくみと高齢者の生活を支援する介護を学ぶ。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 介護の基本的な考え方	2	2	0	<講義内容> <ul style="list-style-type: none"> ・理論と法的根拠に基づく介護—介護に関する専門的知識技術の必要性 ・倫理に基づく介護 (ICF に基づく介護生活支援、我流介護の排除) <演習内容> <ul style="list-style-type: none"> ・ICF の活用方法
② 介護に関するこころのしくみの基礎的理解	5	0.5	4.5	<講義内容><通信学習課題の概要等> <ul style="list-style-type: none"> ・学習と記憶の基礎知識—記憶の理解 ・感情と意欲の基礎知識—意欲の動機づけ等について ・自己概念と生きがい ・老化や障がいを受け入れる適応行動とその阻害要因
③ 介護に関するからだのしくみの基礎的理解	5	0.5	4.5	<講義内容><通信学習課題の概要等> <ul style="list-style-type: none"> ・人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 ・骨・関節・筋に関する基礎知識 ・中枢神経系と体性神経に関する基礎知識 ・自律神経と内部器官に関する基礎知識 こころとからだを一体的に捉える
(合計時間数)	12	3	9	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス9-2

指定番号 82

商号又は名称：(株) KEG キャリア・アカデミー

科目番号・科目名	(9)イ こころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職として法律上の規定からの介護の目的、倫理を学ぶ ・高齢者や障がい者のこころの変化を把握し、記憶・意欲の基礎知識とその人らしい生きがいや意欲について学ぶ。 ・高齢者の人体の構造や働きについて学ぶ。からだのしくみを学習し、高齢者の生活を支援する介護を学ぶ。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
④ 生活と家事	2.5	2.5		<講義内容> <ul style="list-style-type: none"> ・家事と生活の理解 ・家事援助に関する基礎的知識と生活支援 生活歴、自立支援、予防対応、主体性・能動性を引き出す 多様な生活習慣、価値観 <演習実施方法> <ul style="list-style-type: none"> ・ ベッドメイキング
⑤ 快適な居住環境整備と介護	2.5	2.5		<講義内容> <ul style="list-style-type: none"> ・快適な居住環境に関する基礎知識 ・高齢者、障がい者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援法 演習実施方法 福祉用具の活用法
(合計時間数)	5	5	0	

使用する機器・備品等	ギャッジベッド、入浴用福祉用具等
------------	------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス9-3

指定番号 82

商号又は名称： (株)KEG キャリア・アカデミー

科目番号・科目名	(9)イ ことごとからだのしくみと自立に向けた介護			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・身支度の意義と目的を理解したうえで、介護できるよう学ぶ。事例を通し、整容の目的や支援方法を学ぶ。 ・高齢者、障がい者にとって、安全な移動、移乗ができるよう介護技術や福祉用具について学ぶ ・食事に関する介護は、高齢者にとって、生活基盤となる大切なもの。そのため、高齢者のからだの変化を知り、食事の介護技術を食事という生活の援助と捉え、生活支援技術の根拠を理解する。 ・入浴や清潔保持は、高齢者のからだところにとって、極めて大切である。しかし、からだへの負担が大きいため、安全に介護するよう技術を習得する。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑥ 整容に関連したことごとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7		<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・整容に関する基礎知識 ・整容の支援技術—洗面、整髪、爪の手入れ、化粧、髭そり、選択・着脱（衣類の着脱場面での安全への配慮） 自助具・補助具の利用、口腔ケア <p><演習事例検討></p> <ul style="list-style-type: none"> ・顔の拭き方、爪の手入れ、衣服の着脱、口腔ケアと観察、口腔リハビリテーション。事例より、グループワークをいくつか検討。
⑦ 移動、移乗に関連したことごとからだのしくみと自立に向けた支援	7	7		<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動、移乗に関する基礎知識—廃用症候群、まひ、関節可動域、ボディメカニクス、良肢位、体位 ・様々な移動、移乗に関する道具とその活用—ベッド、マットレス、車椅子、杖、歩行器 ・介護職員にとって、負担の少ない移動・移乗の支援法（介護者の負担の少ない介助） ・社会参加の留意点、移動と支援体位変換技術 <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・安楽な体位の保持技術、体位変換、車いすの介助、歩行介助（肢体不自由者、視覚障がい）、移乗
⑧ 食事に関連したことごとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7		<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事に関する基礎知識 食事をする意味、咀嚼・嚥下のメカニズム、栄養素とその働き ・食事環境の整備、食事に関連した用具、食器の活用方法。食事形態とからだのしくみ 食事に関した福祉用具の活用と介助方法 ・楽しい食事を阻害することごとからだの要因の理解と支援方法—高齢者の食事、調理法、疾患と食事 ・食事と社会参加の留意点と支援—誤嚥性の留意点 <p><演習実施方法></p> <ul style="list-style-type: none"> ・食事方法、（片麻痺、視覚障がい） （グループ）ワークの検討
⑨ 入浴、清潔保持に関連したことごとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7		<p><講義内容></p> <ul style="list-style-type: none"> ・入浴、清潔保持に関する基礎知識 ・入浴用具（多種）と整容用具の活用方法 ・入浴・清潔を保つための方法—体調の確認、羞恥心や遠慮

				への配慮 ・楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 <演習実施方法> ・浴槽を利用した入浴介助、全身清拭、陰部洗浄 ケリーパッドを利用した洗髪 目、鼻腔、耳、爪の清潔。 足浴、手浴 事例問題の検討（1～3）
(合計時間数)	28	28	0	

使用する機器・備品等	ビーズマット、クッション、車いす、T字杖、ロフトランドクラッチ、四点杖、ウォーカーケイン、歩行器、食事用自助具、入浴バス、浴槽内いす、入浴台、シャワーチェア、ギャッジベッド
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス9-4

指定番号 82

商号又は名称：(株) KEG キャリア・アカデミー

科目番号・科目名	(9)イ ころとからだのしくみと自立に向けた介護			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・排泄は生きていく上で、大切な行為であるとともに、人に見られたくない行為でもある。排泄の意義と目的を理解したうえで、細やかな介護を提供できるよう学ぶ。 ・睡眠の基礎知識として、睡眠のメカニズムを学習し、利用者に心地よい睡眠を確保する環境と用具の活用方法を学ぶ。加えて、睡眠を阻害する環境およびころとからだの要因を理解する。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑩ 排泄に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7		<講義内容> <ul style="list-style-type: none"> ・排泄に関する基礎知識—排泄とは、排泄のメカニズム ・さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法 ・爽快な排泄を阻害するころとからだの要因の理解と支援方法 <演習実施方法> <ul style="list-style-type: none"> ・ポータブルトイレ、片まひのトイレ介助、尿器を利用し排泄介助、布オムツ交換、紙おむつの交換 (グループ) ワークの検討
⑪ 睡眠に関連したころとからだのしくみと自立に向けた介護	7	7		<講義内容> <ul style="list-style-type: none"> ・睡眠に関する基礎知識—睡眠の大切さを学ぶ ・睡眠環境に関する道具とその活用—寝室環境、寝具、福祉用具の活用 ・快い睡眠を阻害するころとからだの要因の理解と支援方法—安楽な姿勢、褥そう予防 <演習実施方法> 演習の活用
(合計時間数)	14	14	0	

使用する機器・備品等	尿器、差し込み便器、布おむつ、紙おむつ、ポータブルトイレ、ギャッチベッド
------------	--------------------------------------

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス9-5

指定番号 82

商号又は名称：(株)KEG キャリア・アカデミー

科目番号・科目名	(9)イこころとからだのしくみと生活支援技術			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・死に行く人の尊厳を守り、その人らしい死を迎えるための介護に、終末期の基礎知識を習得する。 ・死に至る過程とともに、死を迎える高齢者と家族の心理を理解し、支える介護方法を理解する。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑫ 死にゆく人に関連したこころとからだのしくみと終末期介護	6	6		<講義内容> <ul style="list-style-type: none"> ・終末期に関する基礎知識とこころとからだのしくみ 終末期とは ・「死」に向き合うこころの理解 ・苦痛の少ない死への支援 <演習実施方法> <ul style="list-style-type: none"> ・習に基づいて、介護職員の役割を理解 ロールプレイング
(合計時間数)	6	6	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス9-6

指定番号 82

商号又は名称：(株) KEG キャリア・アカデミー

科目番号・科目名	(9)ウ こころとからだのしくみと生活支援技術—生活支援技術演習			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> 生活場面、障がい状況の異なる利用者の事例を通し、生活支援を提供する理解と技術の習得。 利用者の心身状況にあわせた介護を提供する視点を理解する。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
⑬ 介護過程の基礎的理解	5	5		<講義内容> <ul style="list-style-type: none"> 人体の各部の名称と動きに関する基礎知識 骨・関節・筋に関する基礎知識 中枢神経系と体性神経系に関する基礎知識 自律神経と内部器官に関する基礎知識 こころとからだを一体的にとらえる。
⑭ 総合生活支援技術演習	5	5		<演習実施方法> 事例検討 <ul style="list-style-type: none"> 女性、右麻痺、失語症、居宅サービス、 女性、アルツハイマー型認知症、グループホーム 女性、独居、施設サービス 女性、糖尿病、特別養護老人ホーム、寝たきり
(合計時間数)	10	10	0	
(総合計時間数)	75	66	9	
使用する機器・備品等				

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。

シラバス10

指定番号 82

商号又は名称：(株) KEG キャリア・アカデミー

科目番号・科目名	(10) 振り返り			
指導目標	<ul style="list-style-type: none"> ・在宅、施設のいずれの場合でも、「利用者の生活の根拠に共に居る」という意識をもって、その状態における模擬演習（身だしなみ、言葉づかい、対応の態度等の礼節を含む）を行い、業務での基本的態度の視点で介護を行えるよう理解を促す。 ・研修を通じて学んだことは、継続して学ぶべきことを演習等で受講者自身に言語化させうえて、利用者の生活を支援する根拠に基づく介護の要点について講義等により再確認を促す。 ・修了後も継続的に学習することを前提に、介護職が身につけるべき知識や技術の体系を再掲するなどして、受講者一人ひとりが今後何を継続的に学習すべきか、理解できるよう促す。 ・最新知識の付与と、次のステップ（職場環境への早期適応等）へ向けての課題を受講者が認識できるよう促す。 ・介護職の仕事内容や働く現場、事業所等での研修の実例等について、具体的イメージをもてるような教材の工夫、活用を図る。 			
項目番号・項目名	時間数	うち 通学学習 時間数	うち 通信学習 時間数	講義内容・演習の実施方法・通信学習課題の概要等 (別紙でも可)
① 振り返り	2	2		<講義内容><通信学習課題の概要等> ・研修を通して学んだこと ・今後継続して学ぶべきこと ・根拠に基づく介護の要点 利用者の状態に応じた介護と介護過程 身体、心理、社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等 <演習実施方法> ・振り返り法のグループワークを実施
② 就業への備えと研修修了後における実例	2	2		<講義内容><通信学習課題の概要等> ・継続的に学ぶべきこと ・研修終了後での継続的な研修について、具体のイメージで けるような事業所等の実例の紹介 (OFF-JT、OJT) <演習実施内容> ・介護事業所の職員による現場実例の紹介
(合計時間数)	4	4	0	

使用する機器・備品等	
------------	--

- ※ 通学時間数には通学形式で講義・演習を実施する時間数、通信時間数には自宅学習にあてる時間数を記入すること。
- ※ 各項目について、通学時間数を0にすることはできない。なお、通信時間数については別紙3に定める時間以内とする。
- ※ 時間配分の下限は、30分単位とする。
- ※ 項目ごとに時間数を設定すること。
- ※ 実技演習を実施する場合は、実技内容・指導体制を記載すること。